

## 令和6年2月定例教育委員会会議録

日 時	令和6年2月9日（金） 午後1時30分～午後2時36分
場 所	秦野市役所教育庁舎3階大会議室
出席委員	教育長 佐藤 直樹 教育長職務代理者 小泉 裕子 委員 飯田 文宏 委員 牛田 洋史 委員 内田 晴久
欠席委員	なし
委員以外 の出席者	教育部長 原田 真智子 教育指導課長 関野 貴之 文化スポーツ部長 宇佐美 高明 教育研究所所長代理 相澤 広輔 教育総務課長 守屋 紀子 生涯学習課長 水島 一葉 学校教育課課長代理 坂本 正之 図書館長 山本 英範 学校教育課担当課長 上條 秀香 教育総務課課長代理 三川 辰徳 教職員課長 進藤 大輔 教育総務課主査 廣田 達也
傍聴者	なし
会議次第	<p style="text-align: center;"><b>2月定例教育委員会会議</b></p> <p style="text-align: center;">日 時 令和6年2月9日（金） 午後1時30分</p> <p style="text-align: center;">場 所 秦野市役所教育庁舎3階大会議室</p> <p style="text-align: center;">次 第</p> <p>1 開 会</p> <p>2 会議録の承認</p> <p>3 教育長報告及び提案</p> <p>(1) 令和6年3月の開催行事等について</p> <p>(2) 令和5年度「学校生活全般における体罰の実態把握に関する調査結果」について</p> <p>(3) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について</p> <p>(4) 寺子屋放課後学習支援の現状について</p> <p>(5) 東京ガス・秦野ガスと連携した効果定量型省エネ教育プログラムの実施について</p> <p>(6) 令和5年度はだのっ子アワード事業の実績報告について</p> <p>(7) 令和5年度子ども読書活動推進事業講演会について</p> <p>4 議 案</p>

	<p>(1) 議案第2号 令和6年度秦野市一般会計（教育費）予算について</p> <p>(2) 議案第3号 令和5年度秦野市一般会計（教育費）予算の補正について</p> <p>5 協議事項</p> <p>(1) 園小中一貫教育に係る教育課程の編成方針について</p> <p>6 その他</p> <p>(1) 要望書等について</p> <p>7 閉 会</p>
会議資料	別紙のとおり

佐藤教育長

皆さんこんにちは。お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

それでは、ただいまから2月定例教育委員会会議を開催させていただきます。お手元の会議次第に沿って進めさせていただきます。

まず、会議録の承認につきまして、御意見、御質問等ございましたらお願いしたいと思います。

なお、非公開案件につきましては、会議終了後、事務局にお願いしたいと思いますですが、いかがでしょうか。よろしいですか。

—異議なし—

佐藤教育長

それでは、ないようですので、会議録を承認したいと思います。

次に、非公開案件の取り扱いについてになりますが、3の教育長報告及び提案の(2)令和5年度「学校生活全般における体罰の実態把握に関する調査結果」については、非公開情報が含まれるため、また、5、協議事項(1)園小中一貫に係る教育課程の編成方針については、意思形成過程にあるため、会議を非公開とさせていただきますたいのですが、よろしいでしょうか。

—異議なし—

佐藤教育長

ありがとうございます。

よって、3の(2)、5の(1)は非公開とさせていただきます。

それでは、次第3、教育長報告及び提案について、それぞれの所管からお願いしたいと思います。

文化スポーツ部長

報告(1)令和6年3月の開催行事等について、私から御報告

させていただきます。資料No. 1 を御覧いただければと思います。

はじめに、令和6年市議会第1回定例会月会議でございます。今月26日月曜日から3月26日火曜日まで開催されます。第1回定例会月会議では、市長の施政方針に始まり、予算を審議する議会となります。会期は30日間で、日程は記載のとおりでございます。

次に、3月2日土曜日、ほりかわ幼稚園・園舎お別れ開放を行います。これは、本年4月から堀川小学校内に移転することに伴いまして、園舎お別れ式典を実施するとともに、卒園生や地域の方に向けて園舎を開放いたします。

同じく3月2日土曜日ですが、令和5年度子ども読書活動推進事業講演会を「絵本と育つ子どもたち」をテーマに開催いたします。詳細は、資料No. 6で御説明させていただきます。

次に、4日月曜日は、第10回「よむよむDAY」になります。

次に、3月9日土曜日です。第4回ミュージアム青空レクチャーで「鉾ノ木遺跡見学会」を開催いたします。1点、資料には「ほこのぎ」という形で書いてあると思いますが、正しくは「ほこのき」ということで訂正をお願いしたいと思います。

同じく9日土曜日、10日日曜日に、南が丘公民館まつりが開催されます。利用団体等による発表や展示を行います。

2ページを御覧いただければと思います。次に、今年度の卒業式・卒園式になります。3月12日火曜日は中学校の卒業式、15日金曜日、幼稚園の卒園式、そして19日火曜日が小学校の卒業式となります。

次に、3月14日木曜日です。はだの生涯学習特別講座、「本町中からはばたけ！LUNA SEA 真矢の軌跡」を開催します。はだのふるさと大使でございますLUNA SEAの真矢氏が、母校本町中学校の在校生とドラムセッションなどを行い、在校生との交流を深めます。

次に、15日金曜日です。定例教育委員会会議がございますので、御出席のほど、よろしく願いいたします。

次に、15日金曜日と26日火曜日は、ブックスタート事業になります。

次に、22日金曜日、幼稚園の修了式、25日月曜日は小中学校の修了式となります。

そして、今年度最後の行事になりますけれども、29日金曜日は、教育委員会辞令交付式となっております。

3月の開催行事等は以上でございます。

私からは、(3)、(4)を続けて御報告いたします。

まず、(3) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について、資料No. 2を御覧ください。

まず、今年度の体力合計点については、1ページ上段の下線の部分に記載してありますが、全国的には体力の低下が続く中で、調査を実施して以来、初めて小学校の男女ともに神奈川県平均値を超えました。改善の大きな要因といたしましては、重点強化ポイントといたしまして、反復横跳びと20メートルシャトルランについて、指導主事が全校を巡回し支援してきたことであると認識しており、児童が自分の力を発揮する環境づくりにつながったと見ております。また、種目別の結果では、2ページにございますとおり、小学校では全国または県の平均値を上回っているものが多く見られます。

一方、3の課題といたしましては、まだ児童生徒の力が十分に引き出せていない学校もあり、今回の結果などを市内で共有しながら、指導主事などによる巡回支援を継続し、学校と協働して取組を推進してまいります。

さらには、地域力を生かした日立サンディーバや湘南ベルマーレなど民間企業との連携や、早寝早起き朝ごはん運動など、本市の特色ある教育活動の効果もあったと判断しておりまして、既に次年度に向けては、トヨタ自動車のグループ企業などと連携して、体力向上の取組を拡充しているところです。

引き続き、地域や民間企業と連携して、はだのっ子の体力向上を目指してまいります。

続きまして、(4) 寺子屋放課後学習支援の現状について、資料No. 3を御覧ください。

全国学力・学習状況調査の質問紙調査では、家庭学習の時間確保が課題となっており、家庭や地域と連携した学習活動の実現を図るために、はだのっ子寺子屋事業を進め、令和7年度までには市内7か所の開設を目指しているところです。

1ページ上段の1を御覧ください。本市では、自学自習型、グループ学習型、個別支援型の3つの方式で展開しています。

1、小学生を対象とする自学自習型教室を御覧ください。小学校1から6年生を対象にしておりまして、4校98名の児童が登録しております。

次に、2、中学生を対象とするグループ別学習教室を御覧ください。中学校2年生を対象に、3校37名の生徒が参加しております。

次に、2ページ目、3、個別支援型学習支援教室を御覧ください。こちらは、生活援護課、子育て総務課から移管したもので、個別支援を中心とした学習形態となっており、小学校1年生から中学校3年生までを対象とし、現在39名の児童生徒が参加しております。

いずれの場合も、和やかな雰囲気の中、参加者及び保護者からは、学習習慣の定着が進んでいるとの声が多数寄せられております。また、不登校傾向がある参加者の居場所づくりとなっているとの報告もありました。

市内10か所で開催されている3つの取組の合計人数は、昨年度の115名から174名と大幅に増えており、そのほかにも、民間学習支援教室では61名の児童生徒が通っていることから、民間主導の教室と連携を強化してまいりたいと思います。

私からは以上です。

私からは、(5)、(6)を続けて報告させていただきます。

まず、(5)東京ガス・秦野ガスと連携した効果定量型省エネ教育プログラムの実施について御報告させていただきます。資料No. 4を御覧ください。

今年度、本教育プログラムの実施導入を表明しました小中学校4校、計14クラスにおいて、在籍する児童生徒を対象に本研修を受講した教員が講師となり、6週連続の省エネ講座を実施した成果報告となります。

まず、項番1の概要を御覧ください。東京ガスの住環境計画研究所が、環境省の実証事業の一環として小中高等学校の教育現場で活用できる省エネ教育プログラムを開発したもので、本市が実施としては全国初となります。

(3)のCO<sub>2</sub>排出量の削減効果を御覧ください。今回、本プログラムを実施したことで、受講した児童生徒445名の家庭に対して、年間当たりのCO<sub>2</sub>の削減量が81.7トンという結果になりました。

続いて項番2ですが、資料の裏面を御覧ください。表にありますとおり、授業前のstep 2、表の一番左側のstep 2と授業後のstep 6では、授業の回数を重ねていくことで省エネ行動実施率はほぼ右肩上がりに向上しております。本市での取組結果は、環境省実施時の期待値以上の結果となったとの報告を受けております。

グラフ下の環境関心・環境行動の変化につきましても、いずれのアンケート調査においても、実施後は向上したという結果とな

っております。

続いて、項番3の保護者の感想を御覧ください。保護者のアンケートからも、今回の取組が家庭での省エネ行動のきっかけになったと考える保護者は87.1%という結果が出ており、本プログラムが、児童及びその家庭の省エネ行動の促進に寄与したと考えられます。記載できなかった保護者のコメントとしまして、「具体的に子どもたちが理解し実践できる項目として、当たり前になることがすごいです」や「省エネが必ずしも我慢や不便の代名詞ではないと捉え、限りある資源のために、子どもたちの未来のために今以上に行動していこうと思うよい機会となりました」等の感想をいただいております。

項番4を御覧ください。教員のアンケートからも、73.4%が、今後も継続して省エネプログラムを行いたいとの結果となっており、学校の要望に応えられるよう、次年度も本プログラムを継続していく予定であります。

最後に、本事業は、実施としては全国初ということで、効果定量型省エネプログラムを普及促進することを目的に、日本教育新聞社への広報出稿並びにPR動画を撮影しており、教育長、大根小学校、東中学校に取材、撮影の御協力をいただいております。

続いて、(6)令和5年度はだのっ子アワード事業の実績報告について御報告させていただきます。資料No.5を御覧ください。

本事業は、ふるさと秦野を愛する児童生徒の育成を目指し、平成19年度から実施され、本市の特色ある教育活動として、今年度で17年目を迎える事業です。

項番3の読書活動の部分にも記載があるとおおり、令和2年度より読書活動部門を新設し、また、義務教育学校の設立も視野に入れ、小中一貫のカリキュラムとして、ふるさと科の創設と多忙化解消にもつなげるため、ふるさと秦野検定においては、オンラインの活用や学校単位での参加も進めてきているところです。

項番1、(1)を御覧ください。まず、ふるさと秦野検定についてですが、実施に当たりましては、オンラインで申込をいただいた児童生徒によるセンター方式として夏季と冬季に1回ずつ実施いたしました。センター方式に加えまして、ふるさと科のコンテンツとして小学校3年生を中心に実施の希望が多く、通常の教育課程の一つとして参加をいただいております。

なお、今年度の参加者は1,075名の見込みとなり、過去最多の参加となります。

続いて、(2)を御覧ください。受検者数の推移を見ていただ

くと分かりますように、コロナ禍によりオンラインの活用を始めた令和2年度の申込者数から比べますと徐々に受検者数は増え続け、今年度、令和2年に比べますと5倍以上に増大したと言えます。これは、タブレットを用いたオンライン受検の手軽さ、さらには、小学校3年生のカリキュラムでは、社会科において私たちの町と市について学習を行いますので、秦野市を知るきっかけづくりとして、ふるさと秦野検定を有効に活用できていると分析しております。

裏面の4、(4)受賞者概要を御覧ください。体験活動部門とは、秦野市を7つのエリアに分けて市内の史跡等をめぐり、調べたことを記入したり写真を撮ったりし、体験マップを完成させるものですが、全7地区を達成することができた子どもたちは、昨年度の認定者は4名でしたが、(4)のエにあるとおり、今年度は10名に上りました。

ふるさと秦野検定とともに体験マップに取り組む子どもたちも多く、体験と検定によって得た知識が一体化した生きた知識となっているという声も、参加した保護者からいただいております。

さらに、(5)の読書活動部門ですが、20冊の記録帳1枚の提出につき1枚の認定証を子どもたちに渡しております。幼稚園、こども園が取り組んでいる保護者による読み聞かせ、絵本のもりは、4月から99枚の提出があり、最多で提出した園児は11枚となっています。小中学校が取り組んでいる読書のもりは、1年間で430枚の提出があり、最多で提出した児童は78枚でした。昨年度は379枚でしたので、毎月第1月曜日をよむよむDAYとした市内一斉の読書活動推進とのタイアップが成果を生んでいると見ています。

市全体の読書活動推進の取組により、今年2月3日も、毎日新聞等でも報道されましたが、西中学校の3年生が青少年読書感想文全国コンクールで全国学校図書館協議会会長賞を受賞したほか、末広小学校が、こどもの読書活動優秀実践校の候補として県の推薦を受けており、現在、文部科学省にて審査を受けているところです。

読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことができないものであると考えております。

最後に、今年度の表彰式についてですが、1月20日に無事に終えることができました。教育委員の皆様方にも御出席いただきましてありがとうございました。今年度の受賞者は昨年度の2倍

近くの人数となり、上位受賞者へは、今回初めて導入しましたはだの産材の表彰状が授与されました。表彰式の様子については、秦野市公式ユーチューブはだのモーピックにおいて動画配信されております。今回の受賞者代表の言葉の一文は、市長の施政方針にも取り入れられると伺っており、秦野の子どもたちが、秦野のことを知ることで、ふるさとはだのを愛する人になってもらうと同時に、主体的に学ぶ楽しさや学び方を獲得する非常に有効な仕組みと考えておりますので、より一層の御協力をいただきながら、本市独自のカリキュラム、はだのふるさと科の重要コンテンツとして拡充していきたいと考えております。

私からは以上です。

図書館長

図書館からは、(7) 令和5年度子ども読書活動推進事業講演会について御説明いたします。資料No. 6を御覧ください。

様々な情報メディアの発達により子どもの読書環境が変化していますが、子どもの成長に欠かせない読書活動を推進していくため、子どもの読書の大切さと本の魅力を知る機会として毎年開催している子ども読書活動推進事業講演会ですが、今年度は、ふくだのぞみさんを講師にお迎えして、「絵本と育つ子どもたち」と題して講演をしていただきます。

日時は、3月2日土曜日、午後1時半からで、図書館2階の視聴覚室で行います。

講師のふくだのぞみさんは、保育士の傍ら、絵本作家、イラストレーターとして活躍されています。保育の現場などで子どもたちがどのように絵本に関わっているか、また、絵本の作り手がどんな思いで制作しているかといったことについて話をさせていただきます。

募集は2月1日から始めておりまして、現在までに10名ほどの応募をいただいております。

以上です。

佐藤教育長

報告が終わりました。一括して御意見、御質問をお願いしたいと思っております。いかがでしょうか。

飯田委員

それでは、資料No. 2について少しお聞きしたいのですが、2ページの3、本市の課題と今後の取組の中で、指導主事の方が調査に赴いて、正しい計測方法等をとあるのですが、基本的には先生が計測ののでしょうか。それとも、反復横跳びなどは生徒同士が計測し合っているのか、その点、どのような計測の仕方をしているのかお聞かせください。

教育指導課長

反復横跳びとかは、ペアになって数えるということで、担当の

佐藤教育長

教師がルールを確認した上で、人数が多いので、さすがにそれを先生が全部というのはなかなか難しいのが現状です。ですので、ルールをもう一度確認して、これでやりますよとした上でカウントをしています。全体的に、スタートとか終わりとかということは教師がやっているという形になります。

少し補足ですけれども、これは資料に一部加筆しなければいけません。後ほど、園小中一貫教育のところでも出てくるのですけれども、今年と昨年と中学校の元教員と一緒に支援しています。指導主事だけがここに書いてありますけれども、元中学校の体育の先生と一緒に行っていただいてサポートしているので、事実上、3名体制ですね。担任とサポーター2人、合計3人でやっているのです、そのあたりは手厚く支援できていると思います。

ほかにいかがでしょうか。

小泉委員

今と同じく資料No. 2ですけれども、表題のところに「全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果」という題がついているのですけれども、運動習慣についての調査結果等はあるのでしょうかというのが1つ気になったのです。指導主事の巡回支援等があって、中学生に特に効果があったように思われますけれども、小学生にとって、遊びの中で育まれている体力とか運動能力があると思うのですね。室外遊びの推奨も、今までも学校ごとにされているとは思いますが、その辺もまた大事なところかと思うので、先生方に子どもたちに声がけ等をしていただけたらいいのかなと思いました。

教育指導課長

基本的に数値として上がっているものはこちらになっておりまして、それ以外に、そのときの状況、質問紙という形で質問されております。こちらへ掲載はしていないのですけれども。

以上です。

佐藤教育長

次年度、今、御指摘いただいたように、運動習慣等もどのように表記できるのか確認させていただいて、ぜひ運動習慣もしっかり記載したいと思いますし、先ほど説明の中で最後にありました早寝、早起き、朝ごはん運動で、小泉委員が言われるように、北幼稚園でスポーツ鬼ごっこの指導を東海大学の卒業生が教えてくださっていて、その遊びの中で子どもたちの体力を育むような取組は、北幼稚園と西幼稚園で取り組んでいただいているので、そういった効果を来年は小学校のほうにシフトする計画です。ぜひ、今の御意見は反映させていきたいと思います。

ほかにいかがですか。

内田委員

今の小泉委員の御質問に関連してですけれども、最初、私がか

の資料を見せていただいたときに、体力を数値化しているということで、この数値の単位は何だろうと思った次第です。裏面を見ますと色々な種目があって、県平均あるいは全国平均がありますので、恐らくそれぞれ一つひとつポイントが設定されて、全国的に同じ基準で比較をするというような仕組みになっていると思うのですが、子どもたちの体の成長などを考えると、これも大事なのかもしれません、色々な体の動きがあってもいいと思いますので、これはこれでいいとして、秦野は秦野で自然の環境なども生かして、体の発達を目的とした運動といますか、体づくりにふさわしいようなものも考えていってもいいのかなと思いました。今、教育長がおっしゃられたことだと思います。

佐藤教育長

ありがとうございます。私も先日、北幼稚園に行かせていただいたのですが、とにかく園庭が広いですね。これが公立の一つの強みだと思うのですが、ですから、今、内田委員が言われたように、本当に全速力で、何も怖がることなく全力で走れる環境というのは本市の特色だと思いますので、引き続き、園校と協力してやっていきたいと思っています。ありがとうございます。

ほかはいかがですか。

牛田委員

私も関連で、この体力向上、運動習慣等の調査結果ですが、数値が全てではないけれども、健康な体と体力の向上というのは、やはり学力や心の成長、発達と同じくとても大事なことだと思います。そういった意味では、数値の上ではとても明るい話題で喜ばしいと思います。

小学校5年生の数値が初めて県平均を上回ったということですので、引き続き現場のほうも努力していただきながら、この子どもたちが中学校2年生になったときの追跡をしていただいて、どのように変化していくのかを楽しみにしたいと思っています。感想です。

佐藤教育長

ありがとうございます。今、牛田委員が言われたように、平成24年辺りで、しぶさわ幼稚園において体力づくりで県の指定を受けて、その5年後の渋沢小学校の調査結果が非常に高かったです。非常に数少ないエビデンスになっていると思いますので、今度、中学校2年生になったときにどうか、ぜひフォローさせていただきたいと思っています。

ほかはいかがでしょうか。

小泉委員

同じく、今の資料No. 2の2ページの下から3行目、「課題としては、まだ児童生徒の力が十分引き出せていない学校も」という表記があるのですが、これは、学校間格差があるという捉

教育指導課長

えなのか、それとも、そういうことは特になく全体としてということなのでしょう。

学校間格差というよりも、どちらかという教師の声かけであるとか、子どもたちの力を100%出してあげるのに色々な声かけがあると思うのです。例えば、「もう少しやりたい？」などという声かけをするかどうかによって、「おかわりする？」という学校側の言葉になってしまうのですけれども、そうすると、やれる子は「もう一回やりたい」とか、気持ちをだんだん高めていくことがたくさんあるので、そういう声かけであるとか、あとは、線を踏んでやる、踏まないでやるなどという細かいルールがあるので、そこを丁寧に子どもたちに伝えてやることで、しっかりと子どもたちが自信を持ってできるかどうかという環境を設定できるかと思っております。

佐藤教育長

一緒に回ってくださった、西中学校の川口博人元校長先生がエネルギーギッシュに声かけをしていって、「がんばれ、がんばれ」ということを言っていました。一度お会いしていただくと説明がよく分かると思いますが、非常にエネルギーギッシュな先生ですので、そういう声かけも大きかったのではないかと思います。

ほかにいかがでしょうか。

牛田委員

資料No. 3の寺子屋放課後学習支援の現状ですが、そのリード文の3行目に書いてあるのですが、「家庭や地域と連携した学習活動の充実」という点から、とてもよい取組だと思っておりますが、どの程度この趣旨が周知されているのかなというのが気になりました。

というのは、希望者が多かった場合にはどのように対応されているのかとか、裏面ですが、「順調に参加者が増加しており」と成果のところがありまして、今後の方向性のところでも「参加可能人数を増やしてほしい」というような声が寄せられているという状況があるのですけれども、そのあたり、どのような形で対応されているのかということが1つ。

それから、ここで記載されている、自学自習型教室では教室長が1名、あるいは学習支援員がほかのところでもあるのですが、こういった方々が対応されているのかということ。

3点目は、グループ別学習教室が中学校2年生と対象を限定していますが、これは、こういった趣旨でこのように限定されているのかということ。

最後に、「民間主導の3か所」という記載があるのですが、民間主導の3か所の運営のあり方、状況について、少しお話を伺い

教育指導課長

たいと思います。

まず、1点目の周知ですけれども、周知は、基本的に対象学年には全員に声をかけるのですが、例えば中学生とか小学生とか、面談の前にどうでしょうかと声をかけると、比較的、本人もやろうかなということ、実際に申込はインターネットからで申込ができますので、タイムリーにこちらで受けとめて進めることができます。

それから、希望者が多かったときにはということですが、今のところはこういった現状ですので、多くなったときには、また考えなければいけないと思っております。というのも、会場であるとか、この後お話しする支援員の数であるとか、そこは対応を変化させていかなければいけないと思っております。

2点目の室長、支援員ですけれども、室長は、基本的には教育現場にいられた方に、御経験がある方に室長になっていただいて、子どもの動きの管理、あとは場所の管理、それから出欠に関して、保護者との連絡に関してやっていただきまして、支援員に関しては学生が多いです。

それから、グループ活動の中学校2年生でということですが、授業としてやったときに指標となるものがないといけなかなと私たちは思っております、それが、小学校6年生と中学校3年生で全国学力・学習状況調査がありますので、その前にどのように活動したかが反映できるといいなと考えております。

あと、民間主導のものですけれども、一応、市内に4か所ということで、西大竹に1か所、あとは南、鶴巻と広畑というところで、基本的には運営される方がいられて、同じように支援する方がいられてということで、そこまで大規模ではないかもしれないですけれども、みたいな形でやっているということでございます。

以上です。

佐藤教育長

少し補足させていただきますけれども、基本的に、中学生を対象とするグループ別学習教室は、中学校の場合、期末面談があるので、そこで塾に通っていないお子さんを中心に声かけいただいております。これは学校長も賛同していただいてやった結果として、このくらいの数字になってきているということです。ですから、周知については、一斉に周知する方法に加え、特に中学校のグループ別学習教室は面談を活用しているということなので、基本的には塾に通っていないお子さんということです。

少し誤解があるといけなけれども、全国学力・学習状況調査のためにやっている訳ではなくて、進路を考えたときに、や

はり中2の段階でしっかり基礎学力を身につけておくことが大きな狙いなので、指標としてそれは出していますけれども、基本的には、子どもたちの進路と学習意欲ということです。

ここに関しては、塾元講師の方で非常に優秀な方がいらっしゃるもので、その方が5年くらい前に、加藤元県議、それから八尋市議あたりからお声かけいただいて、お話しさせていただいて、それで今に至っているということです。

それから、民間のほうについては、西大竹と鶴巻は自治会主導です。それから、南は純粹にボランティアでやりたいということです。それともう一つ、広畑自習相談室も、御承知のように、これも民間のボランティアの方が御自身でやると。2通りのパターンがあります。

それから、学生さんと教育指導課長は簡単に言いましたけれども、完全に東海大学の学生に御支援いただいています。そこをきちんと強調しないといけないと思います。これは東海大学の学生さんを抜きにしてはとても回らなくて、希望者が多くなると、やはり学生さんに来ていただいてうまく運営しているという感じが強いです。

ほかいかがですか。

私から少し御質問させていただきますが、春風亭一左さんの講演というのは、西中学校で、さっき本町中学校のLUNA SEAの真矢さんの話、春風亭一左さんの御講演が西中学校で企画されていると伺ったのですけれども、それについては日程に入っていないのですか。まだ未確定ということですか。

3月14日（木）に、LUNA SEAの真矢さんを講師としてお迎えし、本町中学校で「はだの生涯学習講座」を開催します。

他はいかがですか。

今、春風亭一左さんが出てきたところで少し思っていたことがあります。ここで東地区文化財のところでミュージアム青空レクチャーで、合田雅吏さんが来てくださるとか、今、本町中学校でLUNA SEAの真矢さんが講演してくださるとかここにはあるのですけれども、プロの世界で活躍されている方が、自分の学校、自分の出身ということで、先輩から話を聞く機会があるということは、中学生にとってとても刺激のあることではないかと思うのですね。

現在、3人の方ですね。あと、加藤優さんとか吉田栄作さんとか、今、ふるさと大使として御活躍の方が、ユーチューブとか様々な場所で活躍いただいているということを知っているのですけれ

生涯学習課長

佐藤教育長  
小泉委員

ども、任期があるというのを頭の中でよく分かっていなくて、以前、荻谷さんがふるさと大使になられていて、このところお名前がないなと思っていたら、令和4年に任期満了で辞められたということです。やはり任期中に多くの子どもたちと、せっかくこういう機会があるので、たくさん交流の場が持てるといいなと思います。今、春風亭一左さんというお話を聞きまして、希望ですけども、たくさんそういう機会がこれからもあることを願っております。

佐藤教育長

今回、生涯学習課で様々御配慮いただいて実現しました。やはり今、人気の方であれば、御対応をさせていただく部分があるので、ぜひ拡充していきたいと思っています。ありがとうございます。

ほかはいかがですか。

飯田委員

資料No. 5について、感想ですけれども、私も表彰式に出させていただきました。最後に市長と子どもたちが写真撮影をしている風景は、すごく微笑ましい光景があっていいかなと感じたのですね。今年度1,075人、結構多い、過去最高だということですが、これも17年間続いている中で、最初のほうに受けたお子さんがもう親になって、子どもに、「これいいから受けさせるよ」とか、そしてまた、御両親の友達にも「これいいから、お子さんに受けさせたら」とか、そういうロコミではないけれども、そういうもので広がった部分もあるのかなという感想を持ちました。

増えることは非常に喜ばしいことで、これからも継続事業として続けていってほしいと思います。

感想ですけれども、以上です。

佐藤教育長

ありがとうございます。保護者からのロコミという話も今いただきましたが、そういう事例なども学校に周知、紹介して、そういう取組を、うまくスパイラルが回るようにやっていきましょう。

ほかはいかがですか。

牛田委員

私も同じく資料No. 5、はだのっ子アワードですが、本当にこの間の表彰式、とても立派な授賞式で、特に受賞者代表の言葉の内容がとてもすばらしくて感心しました。お話を聞いていて、親子でともに挑戦していくという光景が目に見えんようなお話で、私はこの受賞者の言葉を聞いて、ますます上級を目指してがんばろうという子どもたちがたくさんいたのではないかと思います。

また、今後、はだのふるさと科のカリキュラムが定着していく中で、それと連動していく中で、このはだのっ子アワードに関心

を持って挑戦する子どももたくさんいるのではないかと期待しているところです。

最後に、授賞式のことですが、受賞者代表の言葉で、市長が正面に立たれて自分の言葉を読み上げていたシーンがあったのですが、あの中身、言葉とか、それから、この授賞式の性質を考えたときに、どうだろうな、市長が正面に立たれなくても、袖の部分で私たちと一緒に起立して、受賞者は、仲間たちや保護者に向かって言葉を述べるというような方法があつていいのかな。そうすることによって、場も何となく和らいできて、そして、保護者も自分の子どもの顔の表情が見えるし、子どものメッセージがよりよく伝わってくるのではないかと思ったりしました。

以上です。

佐藤教育長

教育部長が委員長の実行委員会で御議論いただいて、こういった御意見もあったということで、ぜひお願いいたします。

内田委員

資料No. 4になるのですけれども、東京ガス・秦野ガスと連携した効果定量型省エネ教育プログラム、これは本当にいい取組だと思いました。

1点、これは触れておいたほうがいいかなと思った点があるのですが、1ページの下にあります機器の設定、毎日の行動、これはみんな、とても資源を大切に、環境を意識しながら資源を大切にするという気持ちを育むことだと思います。結論としては、こういったことを行えば、当然CO<sub>2</sub>の排出量が減ってくることになるのですけれども、裏面を見ますと、資源を大切にする、エネルギーをとにかくできるだけ少なくという行動になっているかと思うのですが、最初のところはゼロカーボンというキーワードとなっておりますので、要は、なぜ二酸化炭素が出るかという、もともとは化石エネルギー資源を日本はまだ大量に消費していることがあるのだというところを、少なくともこういうものを実施する側は、十分にそういったところは分けて理解しておく必要があるなと思った次第です。

東京ガスですのでこういったプログラムになっていると思うのですが、2050年のカーボンニュートラルの実現に向けて何か行動を起こしていく上では、もっと徹底したゼロカーボンに向けた取組も考えていかなければいけないのではないかと考えている次第です。

良いことだと思いますので、こういうものをやるときには、本当に我々も十分理解しながらプログラムを進めていったほうがいいと思いました。少しコメントでした。

佐藤教育長

ありがとうございます。やはりゼロカーボンについて、今日の会派懇談会の中でも色々お話をいただいていますので、ぜひ、そのあたりの大項目については、おそらく東京ガスのプログラムの中でも多少触れられているとは思いますが、その辺よく教育的な配慮ということで大きな視点で強調していくことは大事だと思いますので、今の内田委員のことを生かして次年度、希望もたくさん来ているようなのです。各学校から、また引き続きやりたいということで。ぜひ、今後も生かしていきたいと思っています。お願いします。

ほかはいかがですか。

牛田委員

私も今の内田委員から説明があった資料No.4ですが、効果定量型省エネ教育というのが、これは報告書を見ると、とても成果があつて評価が高いということで、6週連続の省エネ講座という説明があるのですが、これはおそらく、6授業時間という考え方でいいのかと思っています。

これは小中学校4校14クラスで実施というのは、何かもったいないなと思います。今、教育長からも希望する学校が増えているということですので、ぜひ、カリキュラムへの影響とか教職員への負担も考えていかなければいけないですが、可能であれば、もう少しこのプログラムを簡素化というか、コンパクトにまとめて、全小中学校でも取り組めるようなスタイルを秦野市側としてつくり上げて、こういった教育に力を入れるということは、今、内田委員が言われたとおり、大事なことはないかと思っています。

検討の余地があれば、ぜひ、その今後のことについて御検討いただけたらと思います。

佐藤教育長

最初に教員の研修が丸1日なのですね、夏休み中。丸1日の研修ってあまり教員はないので少し心配したのですが、終わりの頃に見に行ったら、結構みんな楽しんでやっています。やはりゲーム感覚でやっているのが、1日があまり苦にならなかったのかというのがありました。ただ、やはり6週連続というのもありますので。

ただ、初年度ということでチャレンジ、全国初ですから、それを時間かけてお話ししていくということは、やはり必要になると思います。ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

では、私のほうから、すみません。

先月、行事予定の中で、2月14日に公立園と私立園で合同の園長会をやろうという予定があったと思うのですが、このふくだ

教育指導課長

佐藤教育長

教育総務課長

のぞみさんの講演会について、その場でも御紹介いただけるのですか。

当日の出席は、チラシ等で情報提供させていただきたいと思います。

ありがとうございます。ぜひということです。

やはり今回も民間園に全て研修などの情報提供をすると結構来ていただけるので、これも非常良い取組だと思います。

先日の本町小学校で行った読書の研修会でも、民間園の方が5名ほど来られていたと伺っていますので、ぜひ民間園の方にも周知をお願いしたいと思います。

それではよろしいでしょうか。

それでは、続いてですが、議案に入りたいと思います。

議案第2号「令和6年度秦野市一般会計（教育費）予算について」の説明をお願いします。

議案第2号「令和6年度秦野市一般会計（教育費）予算について」、御説明いたします。

提案理由を御覧ください。地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条に基づきまして、市長に意見を申し出るため提案するものでございます。

資料を1ページおめくりください。歳入総括表となっております。2ページの一番下の欄、教育費合計の欄を御覧ください。令和6年度の当初予算額は8億2,014万1,000円、令和5年度の当初予算額に比べまして3億4,487万円、29.6%の減額となっております。

減額の主な要因といたしましては、まず、1つ目が合計額のすぐ上、22の1の8の教育債ですけれども、建設事業費が減ったことに伴いまして、市債の借入額を2億8,180万円減額、次に、21の5の3の雑入、この内訳としまして、小中学校給食に係る債務について、還付などを見込みまして約3,000万円の減額、そして、資料1ページに戻りまして15の2の8の教育費国庫補助金、こちらは校内ネットワークシステムの更新に伴うデジタル田園都市国家構想交付金の減によりまして約1,700万円減少したこと、この3点が主な要因となっております。

次に、資料3ページ、歳出総括表でございます。一番下の欄、教育費合計を御覧ください。令和6年度の当初予算額は44億2,111万8,000円、令和5年度の当初予算額に比べまして2億5,362万円、5.4%の減額となっております。主な要因といたしましては、まず、小中学校費では、小学校教科書の採択

替えに伴う教師用教科書等の購入などによりまして小学校教育費が約3,500万円、また、給食費の物価高騰支援事業費として、小中合わせまして約6,100万円が増額となる一方で、先ほども申しあげました校内ネットワークシステムの更新が完了したことに伴いまして、ICT環境整備事業費が小中合わせて約1億円、コロナが第5類に移行したことに伴いまして、消毒液などの保健消耗品費が通常ベースの予算額に戻ったことによりまして約2,700万円、また、小学校の給食設備等維持管理費が約5,000万円、また、渋沢中学校の法面改修工事が完了したことに伴う施設改修事業費が約2,700万円減額となったことによりまして、小学校費全体で約7,000万円、中学校費全体で約6,000万円の減額となっております。また、幼稚園費、社会教育費につきましては、いずれも建設事業費が減ったことに伴う減額となっております。

なお、4ページ以降につきましては、各課の事業別名一覧表となっておりますので、詳細を御確認いただければと思います。

説明は以上となります。

佐藤教育長

説明が終わりました。御意見、御質問等ございますでしょうか。よろしいですか。

牛田委員

それでは、2つほどお尋ねしたいのですが、2点とも教育総務課関係です。

教育総務費の4番のみらいの学び舎づくり推進事業費が、大きく予算が積まれているのですけれども、955万1,000円の要求額に対して、予算案が854万6,000円ということです。令和5年度が11万円ということですので大幅に増えているのですが、これは、この推進をしていくに当たっての入札制度とか、そういうものなのかと思ったりもするのですが、少しその内訳を教えてくださいと思っています。

それから、2つ目は安全確保対策事業費です。中学校費の15番が311万7,000円になっていて、防災ヘルメットということが事業概要に書いてあるのですが、この防災ヘルメットの現在の配布状況と言ったらいいのか、その辺はどうなのかというのが少し気になったので、教えてくださいと思っています。

教育総務課長

まず、みらいの学び舎づくり推進事業費につきましては850万円のほとんどが委託費となっております。委託費の中身といたしましては、今後、各地域とかに入りまして、みらいの学校のあり方をどうしていくかと検討するに当たりまして、その検討の中では、敷地の中でどういった配置で校舎を建てていくと効率的か

ですとか、教室の配置、校舎の中の配置を具体的にどういうふうにしていくと色々な活用がしやすいのかという検討を行いますので、そういった意味でのコンサルの委託料というところになっております。また、印刷製本費というのは、地域との協議のための資料の印刷製本という形で数万円程度という内訳になってございます。ほとんどがそのコンサル委託料ということになっております。

また、安全確保対策事業費のヘルメットの配布状況につきましては、基本的には、更新して新しいものを全員に配っている。それで、現在につきましては、新しく入ってこられる先生方に対して、追加分として必要数を配布しているという状況になっております。

佐藤教育長

よろしいですか。

ほかはどうでしょうか。よろしいですか。

それでは、議案第2号につきましては、原案のとおり可決することに御異議ございませんか。

—異議なし—

佐藤教育長

よって、議案第2号は原案のとおり可決されました。

続いて、議案第3号「令和5年度秦野市一般会計（教育費）予算の補正について」の説明をお願いします。

教育総務課長

議案第3号「令和5年度秦野市一般会計（教育費）予算の補正について」、御説明いたします。

提案理由を御覧ください。こちらは、先ほどの一般会計の当初予算と同様に、市長に意見を申し出るために提案するものでございます。

補正の内容としましては大きく2点ございます。

まず1点目は、小中学校の窓ガラスに飛散防止フィルムを貼付する委託業務に係る経費、こちらが国の令和5年度一般会計補正予算における国庫補助事業として採択されたことを受けまして、本年度の歳入歳出予算に追加するとともに、同予算を令和6年度へ繰り越すこと、こちらが1点目になります。

次に、2点目といたしましては、市内事業者の施工時期の平準化を図るとともに、早期完了によりまして市民の利便性を高めることを目的として実施するゼロ市債事業といたしまして、工事をするに当たりまして、令和6年度予算成立前に契約事務を進める必要があるために、資料に示した2つの工事について債務負担行為を設定することの2つとなっております。

資料は次ページ（2）の歳出の表を御覧ください。飛散防止フ

フィルム貼付委託業務料といたしまして、小学校費に2,704万9,000円、中学校費に1,284万5,000円を追加するとともに、歳入としてこの事業に伴う国庫補助金、上の表15の2の7の欄となりますが、999万5,000円を追加するものでございます。また、債務負担行為についてはそれぞれ229万7,000円、3,060万円を限度額として設定するものでございます。

こちらの工事の詳細につきましては、次のページ以降、議案資料としてまとめてございます。そちらを御覧いただければと思います。

飛散防止フィルムの貼付につきましては、3年計画の最終年として実施するものでございまして、小学校は北、南が丘、堀川、鶴巻の4校、中学校は本町、東、北の3校で実施いたします。

また、債務負担行為を設定する工事は、次のページとなりますけれども、中学校は受信機の更新工事、公民館は自家発電機の更新工事を行うものでございます。

説明は以上になります。

佐藤教育長

説明が終わりました。御質問、御意見等ありましたらお願いします。

いかがでしょうか。よろしいですか。

—異議なし—

佐藤教育長

それでは、議案第3号につきましては、原案のとおり可決することをお願いしたいと思います。

それでは、続きまして、その他に入ります。

6、その他、(1)要望書等について、2件ございます。

まず、1件目の説明をお願いします。

教育指導課長

6、その他、(1)要望書等について説明ということで、2点あるのですけれども、よろしいでしょうか。

1点目、新日本婦人の会秦野支部支部長より、卒業式・入学式における「日の丸・君が代」の取り扱いについての要請を収受しております。

内容といたしましては、卒業式・入学式は、子どもの成長を喜び合う大切な行事であり、巣立ちにふさわしい子どもが主人公の式となるように、日の丸・君が代について慎重な配慮を要請するものです。具体的には、1つ目として、卒業式・入学式は子どもを主人公にした行事にすること。2つ目として、子どもと教職員の内心の自由を保障し、日の丸・君が代を強制しないこと。ほか1項目となっております。

2点目、中地区教職員組合より、全国学力・学習状況調査に関する要請を収受しております。

内容といたしましては、2024年度の調査や今後の調査のあり方、活用などについて要請するものでございます。

私からは以上です。

佐藤教育長 では、まず1件目、日の丸・君が代について御要望いただいて、要望書が届いています。まず、これにつきましていかがでしょうか。

よろしいですか。

ー特になしー

佐藤教育長 それでは、2件目の要望書について、説明が続いて行われてしまいましたが、2件目につきまして何か御意見、御質問等ございますでしょうか。

よろしいですか。

ー特になしー

佐藤教育長 2つこういった要望が寄せられているということで、御承知おきください。

では、その他の案件ございますか。

ー特になしー

佐藤教育長 それでは、会議を非公開とする前に、次回の日程調整をお願いします。

事務局 次回は今年度最後の会議ですけれども、3月15日金曜日、午後1時30分から、こちらの会場で予定しております。よろしくお願いたします。

以上です。

佐藤教育長 3月15日ということで、御確認をお願いしたいと思います。

それでは、ただいまから会議を非公開といたしますので、関係者以外の退席を求めます。

ー関係者以外退室ー